

第 1 回和光市食育推進計画策定委員会

(株)地域計画連合・田口・090828 作成

概要

開催日時	平成 21 年 8 月 28 日 (金) 13:30 ~ 15:30
開催場所	和光市役所 5 階 503 会議室
出席者の氏名 (敬称略)	委員：草間委員長、山口副委員長、勝海委員、中野委員、木下委員、加藤委員、近江委員、浪間委員、熊本委員、谷委員 事務局：田中保健福祉部長、石川健康支援課長、市川健康支援課長補佐、上垣内慶子(管理栄養士) 支援業者：中居、田口(記録)(株式会社 地域計画連合)
欠席者の氏名	無し
傍聴者	1 名
議題	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長挨拶 4. 委員紹介 5. 協議内容 1) 計画策定の方向性について 2) 策定スケジュールについて 3) アンケート調査について 4) ワークショップについて 5) その他 6. 閉会
資料	・第 1 回和光市食育推進計画策定委員会 資料 ・和光市食育推進計画策定に関する市民アンケート調査 調査票 ・食事バランスガイド
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録

議事要旨

<p>1. 会議内容の要点記録</p> <p>協議内容 1) 計画策定の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>メタボリックシンドローム対策</u> 計画ではメタボリックシンドロームを重点項目としているが、痩せすぎ等の問題も含めて、計画は広く市民全体を対象とする。 ・<u>地域ぐるみの食育の推進</u> 計画策定後に推進委員会等を設けるなどして、地域での活動の実現につなげる計画とする。 <p>協議内容 2) 策定スケジュールについて</p> <p>パブリックコメントは、市民参加条例に基づき 3 週間程度実施し、市民から意見を募集する。</p>
--

協議内容3) アンケート調査について

- ・ 「食事バランスガイド」

問4の次に、「食事バランスガイド」の分かりやすさを問う設問を加える。また、「食事バランスガイド」は調査票とあわせて送付する。

- ・ 問9「普段の食生活」

選択肢に関してさらに詳しい設問を加えることを（全体のボリュームも含めて）検討する。

- ・ メタボリックシンドローム

「身長」「体重」「運動量」を問う設問を加えることを検討する。

- ・ 口腔ケア

口腔ケアに関する設問を入れることを検討する。

- ・ 調査票全体の分かりやすさ

現在の設問量以上にしないように全体調整する。また、設問・選択肢の表現を分かりやすくする。

- ・ 回答者への配慮

調査票の末文に「結果はホームページで公開されます」という旨の一文を載せる。

協議内容4) ワークショップについて

病院や施設の栄養士、歯科衛生医師会などに参加を呼びかける。

2. 発言者の発言内容ごとの要点記録

議題3. 市長挨拶

市長：食育推進計画の策定は、自治体の努力義務となった。あるべき食の姿を、和光市の地域特性を生かして計画で示すことは重要だと考えている。人口移動が多い和光市において、地産地消あるいは伝統食の発信という事も含めて、和光市ならではの食のあり方を示していきたい。

議題4. 委員紹介

〔委員長・副委員長挨拶〕

委員長：微力ながら、精一杯努めたい。委員の皆様の様々なバックグラウンドや力を発揮して頂きたい。先日内閣府の方に話を聞いたところ、食育推進計画は、都道府県はほぼ100%策定しているが、区市町村では25%程度で、50%に引き上げるのが国の目標とされており、ポイントは「地域（和光市）をよく知ること」、そして「できることから始めること」とであると聞いた。和光市の伝統食を発信することなどが出来ればよいと思っている。和光市の目指すまちの姿を、皆さんで話しあっていきたい。

副委員長：NPOで個人の介護予防講座や「男の料理教室」など、ヘルパーへの講習・在宅高齢者への訪問栄養指導といった活動や、またエプロンシアターの取り組みなど、幅広い世代に対して食に関する活動を行っている。この委員会には、食がおかしな状況になっているのをどうにかしたいと考え、参加させて頂いた。

〔各委員より自己紹介〕（以下は、お名前以外にご自身の活動等を紹介頂いた方のみを掲載）

加藤委員：和光市内の伝統食を広める活動をしている。

熊本委員：主婦をしている。一般市民の声を伝えたいと思い、公募した。

谷委員：栄養士をしているが、この場では一市民として、意見を述べさせて頂きたい。

議題 5 . 協議内容

1) 計画策定の方向性について

メタボリックシンドローム対策

副委員長：「メタボリックシンドローム対策を重視する」と資料にあるが、痩せている人は対象にならないのか。

事務局：全ての人を対象としているが、特に肥満の方を対象としている。ある程度、重点項目という形で内容を絞り、具体的な計画にしたいと考えている。

委員長：重点項目を策定された根拠として、「健康わこう 21」を策定した際に調査されたデータをもとにしている、ということでしょうか。

事務局：その通りである。

事務局：「健康わこう 21」における調査結果を見ると、30 代の男性の肥満値が全国値を上回っていたため、健康支援課としては、栄養や食生活の改善をはかり、メタボリックシンドローム対策を重視するという方針とした。また、策定委員会とは別に、庁内調整会議を設けて、保健福祉部長・健康支援課長・産業支援課長等、食育に関連する各所管が参加・協議している。また、(メタボリックシンドローム対策だけでなく)地域ぐるみの食育の推進を目指す計画という方針もあわせて掲げている。

山口委員：「痩せたい」と十分に食事をとらない女性もいるので、痩せているからよいというわけではないことも意識しておきたい。

地域ぐるみの食育の推進

加藤委員：食文化研究会では、小学校で味噌づくりをするなど、地域ぐるみでの食育の活動をするという活動をした。だが、小学校での活動は、校長先生の判断次第で実現できるかどうかが決まってしまう。どの小学校の子どもでも、全員が平等に経験できるとよい。

委員長：そのような素晴らしい体験が、市内全体に広がるとよい。

副委員長：「食育」はどの分野にも関わることだと思う。学校やいろいろなところとコラボできる。今後、この委員会や学校が、食育についての働きかけを行うことになるのか。

事務局：本策定委員会の位置づけは計画の策定に関する協議組織であるが、策定後に推進委員会等を設けて、地域での活動の実現につなげていきたいと考えている。

2) 策定スケジュールについて

ワークショップ

谷委員：ワークショップはどのように行うのか。

支援業者：地域で活動されている NPO の方等に参加頂き、現場で感じておられる課題、団体としてできることや、市で行える支援等についてご意見を頂きたい。

パブリックコメント

委員長：パブリックコメントはどのように行うのか。

支援業者：計画を来年2月中にまとめ、市民参加条例に基づいて市民の方に公開する期間を3週間程度設けて、意見を頂く。それを踏まえて、修正方針を事務局で検討し、再度委員の皆様におはかりする。

3) アンケート調査について

「食事バランスガイド」に関して

副委員長：「食事バランスガイド」について、先日女子栄養大学で栄養士さんと使い方について話し合ったが、「食事バランスガイド」の推進役である栄養士からも、分かりづらいし使いづらいという意見が出た。

委員長：アンケート調査票に「食事バランスガイド」がついており、さらに別紙もついている意図はどのようなものか。

事務局：「食事バランスガイド」は別紙にした方が家庭で手元に残して見て頂くなどして使いやすいと思い、つけることにした。

熊本委員：プロの人が使いにくいと感じる内容であるのだから、一般の主婦などに使いこなせるものではないと思う。

木下委員：問19の選択肢に「1. 栄養バランスのとれた食事をする」とあるが、栄養バランスのとれた食事というものを全員が十分に理解しているとは言い難いのではないか。

加藤委員：例えば（栄養バランスのとれた食事という抽象的なものではなく）「一汁一菜」などのように、具体的に載せた方が分かりやすいのではないか。

熊本委員：和光市独自で、「一汁一菜」などのようにメニューを提案してはどうか。また、「食事バランスガイド」は配布しなくてもよいのではないか。

近江委員：「食事バランスガイド」は、市民に食について考える一つのきっかけを与えるという意味であれば、よいのではないか。

委員長：今後、アンケート調査の結果を踏まえて「食事バランスガイド」のより効果的な活用方法を検討してはどうか。

副委員長：問4の次に「食事バランスガイドは分かりやすいか」という旨の設問を加えてはどうか。

問9「普段の食生活」に関して

木下委員：問9の選択肢の「寝る前」という表現は、「夜10時前」など具体的に記載した方がよいのではないか。

事務局：生活リズムは多様化しているので、表現として具体的な時間を記載するのが難しいと考えた。

委員長：問9の選択肢3「朝食を食べる」という選択肢は、食べない人についてさらに「どうして朝食を食べないのか」等の理由を聞く設問を設けてもよいのではないか。

支援業者：調査票の中で、全てについて詳しく問うことは現実的に不可能であるが、どの設問について特に詳しく聞くべきなのか、委員の皆様にご意見を頂きたい。

委員長：朝食の欠食率については全般的に問題になっていると思うので、和光市として聞かなくてもよいのだろうか、と思った。スペース等の問題もあるので、事務局で検討頂きたい。

問15「食育に関する活動」に関して

副委員長：問 15 でボランティアへの参加意向を問いかけているが、記名式にすることで意向のある人を把握するという方法もありえる。

メタボリックシンドロームに関して

委員長：回答者属性に関しては、30 代の肥満が問題となっているので、自己申告という形で、「身長」・「体重」を記載してもよいのではないか。

副委員長：メタボリックシンドロームについて調査するのであれば、運動等についても設問を設けるとよいのではないか。

加藤委員：家での食がどれだけ充実するか、ということが（食の）要ではないか。外食では栄養が低い。「料理を学びたい」という青年も多い。自分で食事を作れるように、働きかけるべきだ。

支援業者：運動については選択肢を追加し、加藤委員のご意見については選択肢の 7 で把握したいと考えている。

口腔ケアに関して

中野委員：口腔ケアについては、「毎日 2 回歯ブラシをしているのか」、「歯のケアはできていますか」等の設問を入れることは考えられる。食事の栄養バランスについては、自分でも料理をすることはあるが、必ずしも栄養バランスガイド等を見て決めることはない。親や祖父母に教育されたこと（「バランスよく食べなさい」等）や、自身の意識（腹八分目）などに準じているというのが実感である。

問 11～問 13「地産地消」に関して

浪間委員：問 11・12・13 で、地産地消について十分に聞いてもらっており、内容的にも問題ない。

問 14・18・21 の設問整理

熊本委員：問 14・問 18・問 21 は、同じような内容を聞いている印象を受ける。

支援業者：問 14 は、食育の推進にあたり取り組みの中心になるのは誰か、ということを知っている。

問 18 は、食に関する情報について聞いている。ただ、内容として似かよっている。

事務局：問 14 については、設問の表現をより分かりやすい内容に検討する。

委員長：設問の内容を分かりやすくすることと、選択肢の内容も（削ることはできないかもしれないが）表現は分かりやすくするなど、工夫して頂きたい。

設問のボリューム

中野委員：色々な設問を入れることも大事だが、すでに 8 ページであるので、これ以上増えると回収率の低下につながる。設問内容はコンパクトにまとめた方がよい。

浪間委員：自分も市のアンケート調査に回答した経験があるが、全体の設問量としては現時点程度で限界だと感じる。

回答者への配慮

近江委員：回答してくださる市民の方は、自身の協力した調査の結果を知りたいと思うので、「結果

はホームページで公開されます」等の一文を、分かりやすい形で載せた方がよい。

回収率向上の工夫

熊本委員：回収率を高めるための工夫はどのようなものか。

支援業者：封筒を A4 サイズにする、封筒にイラストや呼びかけの文面を入れる、返信用封筒にテープを貼り、封をしやすくなっている等の工夫をしている。

近江委員：封筒を、透明のセロハン素材にしてはどうか。

支援業者：コスト的に紙素材の方が（セロハン素材よりも）安い。今回は対象が無作為抽出 1500 名と多いので難しいが、策定後の推進事業などで対象が絞られる場合にはセロハン素材を使うことも効果的かもしれない。

4) ワークショップについて

食に関する指導を行う団体

副委員長：埼玉病院など、（食に関する指導を行う）病院や施設の栄養士も、参加対象団体に加えてもよいのではないかと。また企業関係の栄養管理者は、社員寮の栄養管理者だけではないと思う。

事務局：市内には企業も多いので、職域で保健指導をしている栄養士の方に話を聞き、現場の課題等を把握したいと考えている。

口腔関係の団体

委員長：口腔関係の方で、ワークショップに参加できる団体などはあるか。

中野委員：歯科衛生医師会などに参加を呼びかけることは可能である。

副委員長：コミュニティケア会議の食の自立支援部会とは、どのような団体か。

支援業者：行政関係が立ち上げた会議で、コミュニティケア会議というものがあるが、その食の自立支援部会については、現在の活動状況を確認中である。

5) その他

（特になし）

<END>